

2010年7月31日発行



今回の紙面から（ページと内容）

1. 会長挨拶
2. 第28回大会のお知らせ
3. 第4回国際春季フォーラムご案内
理事会より
4. 編集委員会より
6. 大会運営委員会より
2009年度会計報告
7. 2010年度予算計画
8. 学会賞および新人賞ワーキング委員会より
9. JELS 配布方法変更について
10. 大会資料・プログラムの形式と発送方法の
変更について
11. 言語系学会連合発足について
事務局より

会長挨拶

会長 稲田 俊明

会員の皆様におかれましては、学会や研究機関を取り巻く厳しい教育・研究環境の中、益々ご清祥のことと拝察いたします。また、日頃よりご多忙にも拘わらず学会の諸活動にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

このたび、新人事により会長を勤めることになり、青天の霹靂とはこのことかと仰天しましたが、覚悟を決めて学会の発展のために尽力したいと思えます。

本学会の活性化に向けて様々な改革に着手されながら、道半ばで倒れられた故天野会長の諸事業を継承して、原口前会長は強いリーダーシップを発揮され、学会の更なる国際化、学会発表や機関誌 *English Linguistics* への投稿および審査の電子化を含む事務処理の効率化など、天野会長の遣り残された事業をほぼ目標通りに達成されました。そのご貢献に対しお礼を申し上げます。

現在、学会が取り組んでいる緊急課題の一つに、新人賞・学会賞の改革があります。学会に期待される任務のなかで、学会の将来の発展に繋がる重要な責務の一つは、若手研究者の育成・支援です。国の科学技術基本計画による支援や、各大学や個

別の研究機関の制度改革などとは別に、学会でも支援策を講じる必要があります。近年、新人賞への応募は毎年多いとは言えず、創設以来「受賞者なし」という状況も続いています。また、本年は学会賞への応募もありませんでした。機関誌 *EL* に掲載される若手・中堅研究者の優れた論考を考慮すれば、これは応募者側の問題というより、新人賞および学会賞全般に関する学会規定に、改善の余地が多分にあることを示すと考えられます。編集委員と理事から選出した委員による「ワーキング委員会」を設けて問題点を検討し、理事会の審議を経て、2011年度以降の改革の方向が決まりましたので、会員の皆様にお知らせ致します。

次に、歴代会長と事務局が苦慮されてきた財政問題の中で、*EL* 出版のための科研費助成金の獲得がありますが、岡崎事務局長の尽力により、本年度も取得できました。今後も引き続き助成額の削減が予想されますが、他学会の情報を参考にしながら、助成金獲得に努める所存です。また、現事務局では、予算削減に向けてメール会議の活用、会員名簿の廃止など諸経費の仕分けなどが進行中です。他方、削減した予算の有効活用についても積極的に検討しています。例えば、*JELS* はこれまで学会開催時の予約購入制でしたが、今後は正式出版物として、会員全員に配布にすることにしました。

そのような折、東京英語学談話会（代表世話人千葉修司氏）より、学会に対して多額の寄付金を頂戴しました。貴重な財源として有効利用したいと考えています。この機会に関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

学会の国際化の一環として天野会長のリーダーシップにより開始された国際春期フォーラムも軌道に乗り、本年4月には青山学院大学で開催され成果をあげました。開催校の関係者の皆様のご協力に深く感謝致します。

最後に、会員各位の研究活動の益々の発展を祈念し、また学会の諸活動への一層のご協力をお願い申し上げます。

第 28 回大会のお知らせ

日時：2010 年 11 月 13 日（土）～14 日（日）

場所：日本大学 文理学部キャンパス

（〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40）

日本英語学会第 28 回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。シンポジウムは第 1 日の午後と第 2 日の午後に予定しております。

11 月 13 日（土）

9:30～11:45：ワークショップ

12:10～12:50：総会

13:00～14:55：研究発表

15:10～18:00：公開シンポジウム

18:20～19:50：懇親会

11 月 14 日（日）

9:30～12:05：研究発表

13:15～16:00：シンポジウム

今年度は、7つのワークショップ、35の研究発表と5つのシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。（〔 〕内は司会者、（ ）内は講師と題目、“(E)”はシンポジウムまたは個別講演での使用言語が英語であることを示します。）

A. 「英語学ってどんなことするの？—英語学について知ろう！—」（公開）〔大津由紀雄〕

（伊藤たかね：「生成文法と脳科学 形態論の事例から」、石川慎一郎：「ことばを数える：コーパスに基づく英語研究の可能性」、岡田伸夫：「英文法研究の英語教育への三つの貢献」）

B. 「文法研究資料としてのコーパスデータの批判的検討」〔大名力〕（大名力：「コーパスから得やすい情報、得にくい情報—統語論、構文研究を中心に—」、井上永幸：「辞書編集におけるコーパス活用—意味・用法の同定をめぐる—」、杉崎鉦司：「生成文法理論に基づく言語獲得研究と幼児発話コーパス—現状と展望—」、寺尾康：「言語的逸脱事例コーパスの貢献と課題—言い間違い研究を中心に—」）、橋田浩一（ディスカッサント）

（伊藤たかね：「生成文法と脳科学 形態論の事例から」、石川慎一郎：「ことばを数える：コーパスに基づく英語研究の可能性」、岡田伸夫：「英文法研究の英語教育への三つの貢献」）

C. 「文献学と言語理論の接点を求めて」〔小倉美知子〕（小塚良孝：「古英語散文における動詞と目

的語の語順の一側面」、大沢ふよう：「英語名詞句の発達」、小倉美知子：「非人称・再帰・人称構文を同時に持ちうる動詞」、田中智之：「不定詞節における目的語の分布について」）

D. 「Measurement の諸相」〔渡辺明〕（高橋将一：「The Syntax of the Comparative Complement and Its Implications for the Semantics of the Degree Operator」、中西公子：「Measurement in *Too many/much*, *-Sugiru*, and Related Constructions」、宮本陽一：「On Numeral Quantifiers with a Distributive Marker」）

E. 「Cross-cultural Perspectives on Deictic Field—Linguistic, Cultural and Social Perspectives on Language Practices」(E) 〔古山宣洋〕（Nick Enfield：「Sources of Asymmetry in Human Interaction: The Effects of Time, Knowledge, and Agency in a Common Deictic Field」、井上京子：「A Quest for the Deictic Field in the Use of the Japanese Right/Left, Front/Back」、成岡恵子：「Japanese Demonstratives and Socio-cultural Context in Language Practices」、古山宣洋：「Fluctuation in Verbal and Gestural Expression when the Gestural Viewpoints are Recalibrated」）

公開シンポジウム「英語学ってどんなことするの？—英語学について知ろう！—」については、同シンポジウムに限り非会員でも無料で参加できます。

本大会の詳しい内容につきましては、同封の「大会資料・プログラム」および9月以降日本英語学会ホームページに掲載されます大会における発表要旨とワークショッププログラム（ともにダウンロード可能）をご覧ください。

◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費（2000 円）をいただき Conference Handbook と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください（公開シンポジウムのみ参加費と名札なしで入室できます）。また、11 月 13 日（土）の受付は 12 時より始めますのでお早めにお出かけ下さい。

◇ 総会について

13 日（土）の 12:10 より 12:50 まで総会を開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご

挨拶、編集委員会、大会運営委員会、広報委員会、事務局からの報告、などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

◇ 懇親会について

13日(土) 18:20より19:50まで、学内の3号館1F カフェテリア秋桜において会員懇親会(会費4000円(学生3000円))を催します。是非ご参加下さい。

◇ 証明書等の発行について

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、返信用封筒を同封の上、下記までご請求下さい。書式が定まっている場合には証明印以外の部分を記入したものをお送りいただければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2 開拓社内
日本英語学会事務局

◇ 学内食堂の利用時間

13日(土)のみ、昼食時に学内の食堂がご利用になれます。14日(日)は、学内の食堂は休業のため、昼食をご持参いただくことをお勧めいたします。同封の大会資料・プログラムをご覧ください。

第4回国際春季フォーラムのご案内

第4回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時：2011年4月23日(土)・24日(日)

場所：静岡大学浜松キャンパス

(〒432-8011 静岡県浜松市中区城北3-5-1)

研究発表とワークショップの募集につきましては、同封の案内をご覧ください。

理事会より

○ 会計

2009年度収支決算書および2010年度予算計画書が、6月27日開催の第60回理事会にて審議の結果、承認されました。

収支決算と予算計画の内容については、このニューズレターの、6ページから7ページをご覧ください。

○ 役員の異動

会長(退任)

2008年6月より会長代行を、さらに同年8月より会長を務められました原口庄輔氏が2010年3月31日付で、任期満了で会長を退任されました。

日本英語学会の運営にリーダーシップを発揮され、諸改革を軌道に乗せることにご尽力いただいたことに対し、厚くお礼申し上げます。

評議員(退任)

小倉敏博氏、西光義弘氏、馬場彰氏が2010年3月31日付で評議員を退任されました。長年にわたり、日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

編集委員長(退任)

第14期編集委員長の稲田俊明氏が会長就任にともない、2010年3月13日付で編集委員長を退任されました。

日本英語学会特別賞選考委員(退任)

河上誓作氏、原口庄輔氏、大津由紀雄氏が2010年3月31日付で、日本英語学会賞選考委員を任期満了で退任されました。

会長(新任)

2010年4月1日付で、稲田俊明氏(九州大学)が会長に就任されました。

評議員(新任)

2010年4月1日付で、以下の9氏が評議員に就任されました。

秋孝道氏(新潟大学)、岩部浩三氏(山口大学)、奥聡氏(北海道大学)、加賀信広氏(筑波大学)、木村宣美氏(弘前大学)、斎藤弘子氏(東京外国語大学)、鈴木猛氏(東京学芸大学)、鈴木亨氏(山形大学)、吉村あき子氏(奈良女子大学)

任期は、2012年3月31日までの2年間です。

評議員(継続)

2010年3月31日付で退任されました上記3名方々以外の100名の評議員の方々には、2010年4月1日付で、引き続き評議員を務めていただくことになりました。

任期は、2012年3月31日までの2年間です。

評議員の名簿は、日本英語学会のホームページに掲載されておりますので、ご覧ください。

監事(新任)

2010年4月1日付で、萩原裕子氏(首都大学東京)が監事に就任されました。任期は、2013年3月31日までの3年間です。

2009年12月1日から2010年3月31日まで、

前任の伊藤たかね氏の残任期間、監事を務めていただいた後の新たな就任となります。

編集委員長（新任）

2010年4月1日付で、外池滋生氏（青山学院大学）が、第14期編集委員長に就任されました。任期は、稲田前委員長の残任期間で、2011年11月30日までです。

広報委員長（新任）

2010年4月1日付で、大庭幸男氏（大阪大学）が広報委員長に就任されました。任期は、2011年3月31日までです。

日本英語学会特別賞選考委員（新任）

2010年4月1日付で、中村捷氏（東洋英和女学院大学）、大津由紀雄氏（慶應義塾大学）、大庭幸男氏（大阪大学）が、日本英語学会特別賞選考委員に就任されました。任期は、2013年3月31日までの3年間でです。

事務局長補佐（新任）

2010年4月1日付で、西岡宣明氏（九州大学）が事務局長補佐に就任されました。任期は2011年3月31日までの1年間です。

○ 第29回大会（2011年度）の開催校

来年度の大会は、2011年11月に新潟大学にて開催される予定です。日時の詳細については、2011年1月末に発行予定の『え〜ごがく』54号にてお知らせいたします。

○ 日本英語学会賞応募状況

『え〜ごがく』52号でお知らせいたしました第2回日本英語学会賞については、残念ながら、締切の5月31日までに応募がありませんでした。

○ 寄付

東京英語学会談話会より、2010年4月25日付で、50万円のご寄付をいただきました。

ご厚意に対しまして厚くお礼申し上げます。

ご寄付は、ELとJELSの発行、大会と国際春季フォーラムの開催をはじめとする諸事業の活性化のために有効に活用いたします。

編集委員会より

◇ 第14期編集委員会で退任委員の残任期間を務める編集委員について

2009年12月末に行われた日本英語学会会長選挙で、2009年9月1日に就任した稲田俊明第14期編集委員長が選出されました。そのため、2010年1月に編集委員会は、稲田委員長の残任期間（2010年4月1日から2011年11月30日）を務める第14期編集委員長として、2009年12月に副委員長に就任した外池滋生委員を選出しました。さらに、外池副委員長の残任期間（2010年4月1日から2011年8月31日）を務める第14期編集副委員長として伊藤たかね委員を選出しました。第14期編集委員会はこの4月1日より、外池滋生編集委員長と伊藤たかね副委員長という体制で運営を行っています。

また、4月1日付けで会長に就任するために3月31日で退任した稲田委員の残任期間（2010年4月1日から2011年11月30日：EL27巻2号から28巻2号までの編集担当）を務める編集委員には、2009年4月に行った第14期編集委員の選出結果に基づき、神田外語大学の遠藤喜雄氏が就任しました。

◇ English Linguistics 第27巻1号(2010年春号)の刊行について

EL 27.1（春号）が刊行されました。Article 1編、Brief Article 4編、Review Article 1編およびReview 5編が掲載されています。

また、巻末にはEL1巻からEL25巻までに掲載された論文一覧をAuthor Index (Vols. 1-25)としてまとめたCDも添付されています。会員の皆様には、7月初旬に送付されておりますので、ご一読ください。

なお、EL27.1には、新規Editorial Advisory Board一覧が掲載されています。見直し作業によって就任をお願いした44名の方のうち、諸般の事由で3名の方が受諾されませんでしたので、新規Editorial Advisory Board一覧は41名の方から構成されています。

◇ English Linguistics 第27巻2号(2010年秋号)の応募論文の審査結果について

2010年4月1日締め切りで投稿された論文総数は14編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 6編 (syntax 5, semantics 1)、Brief Article 7編 (phonology 1, syntax 1, syntax/semantics 1, semantics 1, cognitive linguistics 1, historical linguistics 2)、N&D 1編 (syntax 1)でした。

以下の表は、EL 27.2 に掲載される態による Review および Review Article も含めた 審査結果です。なお、「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、今号はありませんでした。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	6	3	3	0	0
BA	7	2	3	0	2
N&D	1	0	1	0	0
RA	1	1	0	0	0
Review	10	9	1	0	0
4ヶ月書き直し					
AR	0	0	0	0	---
BA	0	0	0	0	---
合計	25	15	8	0	2

なお、「特別企画 2009」の事前審査（2009年12月15日締切）に応募され採用となった「特集テーマ：Functional Categories, Directionality, and Gradualness in Syntactic Change」のもとで、4月20日締切で一括投稿された論文（Brief Article 相当論文3編と Introduction）は、一般応募論文とは別に慎重に審査され、27巻2号に掲載されることが決定されました。

◇ English Linguistics 第28巻1号(2011年春号)への投稿について

2011年6月発行の English Linguistics 第28巻1号の原稿締切は、2010年9月20日(月)24時(必着)です。学会ホームページに記載されている投稿規定及び書式に関する注意事項を通読され、応募される方は最新版の規定に則って作成しネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「English Linguistics 研究奨励賞」の創設について

編集委員会は、EL27巻より、掲載される論文で優れたものに「English Linguistics 研究奨励賞」を授与することを決定いたしました。昨年の秋以降新人賞の応募・審査体制について検討ワーキング委員会で見直しが行われていますが、この賞は English Linguistics が受賞の機会を高める役割を果たすことをめざして創設されました。「EL 研究奨励賞」論文は、1号と2号に掲載される Article (AR) と Brief Article (BA) をまとめて一括選考を行い、

1巻につき最大5~6編を目安に選出されます。受賞論文の表彰等については、現在見直し中の新人賞や学会賞とともに今年度中にその詳細が決定されます。

以下の「学会賞および新人賞検討ワーキング委員会」からの報告で詳しく述べられているように、今後は、新人賞と学会賞（論文）への応募は、EL に投稿され採用となった論文で「EL 研究奨励賞」を受賞した論文に限定されます。

編集委員会は、本年（2010年）9月20日締切の EL28 巻1号と来年（2011年）4月1日締切の EL28 巻2号に投稿され、これから行なわれる審査で採用となる AR と BA を一括して選考し、優れた論文を2011年度の「EL 研究奨励賞」受賞論文に決定して、2012年3月中に受賞者に通知します。受賞論文の執筆者は、EL に投稿した時の年齢（あるいは研究歴）に即して、2012年度の第9回日本英語学会新人賞あるいは第4回日本英語学会学会賞（論文）への応募資格を得ることになります。

編集委員会は、この秋に2009年9月20日締切の EL27 巻1号（2010年6月刊行済み）と2010年4月1日締切の EL27 巻2号（2010年12月刊行予定）に投稿されてすでに採用となった AR と BA について慎重に検討して、2010年度「EL 研究奨励賞」を決定し、2011年3月中に受賞者にお知らせします。EL27 巻への応募時には案内されていませんでしたが、受賞論文の執筆者は、EL に投稿した時の年齢（あるいは研究歴）に即して、2011年度の第8回新人賞あるいは第3回日本英語学会学会賞（論文）への応募の有資格者となります。

受賞もめざして、EL28 巻1号に奮ってご投稿ください。

◇ 「特別企画 2010：特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、EL28巻の編集に向けて本年度も「特別企画 2010：特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込み締切は、2010年12月15日です。6月初旬には、公募案内が日本英語学会ホームページに掲載され、事務局から応募資格の対象となるグループの代表者に連絡されますので、事前申し込みにぜひ応募ください。

◇ 編集委員会からのお願い事項

①『え〜ごがく』50号とともに送付され、さらに

日本英語学会ホームページにも掲載されている「投稿論文のEL掲載までの手順案内(2009)」をよく読んでいただき、以下の留意事項の遵守を特にお願いたします。

編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記ください。開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信ください。

②ELに応募される論文について、所属機関のworking papers等に発表された研究(の一部)やJELS掲載論文を発展させて投稿されることは望ましいことですが、論文審査および研究業績の発表に関する倫理規定に則して、編集委員会が公平で厳正な審査を行えるように投稿者自身のこれまでの関連する研究には必ず言及し文献に記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用ください。

③編集委員会からの懇意による執筆依頼により執筆・投稿されるReviewおよびReview Articleは、共著による執筆も可能です。ただし、共著の希望がある場合には、執筆依頼に返信をいただく際に、必ずお申し出ください。共著者については、事務局で会員資格を確認し、非会員の場合には、入会のお願いがなされます。

大会運営委員会より

◇ 第28回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表へは51篇の応募があり、審査の結果、本大会では35篇の研究発表が行われることになりました。

◇ 第3回国際春季フォーラム報告

第3回国際春季フォーラムは、2010年4月24日(土)・25日(日)の両日、青山学院大学において開催されました。今回のフォーラムでは、1つの特別講演、3つの入門的講義、20の口頭発表、7つのポスター発表、1つのワークショップが行われま

した。160名(会員134名、非会員24名)の参加者があり、活発な議論が展開されました。フォーラムの運営を支えてくださった開催校の中澤和夫先生をはじめとする開催校委員の先生方と学生の皆さん、木口寛久実行委員長をはじめ国際春季フォーラム実行委員ならびに大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心よりお礼申し上げます。

日本英語学会 2009 年度会計報告

2009年度収支決算書(2010年4月1日現在)が監事(家入葉子氏、萩原裕子氏)による監査を経て、6月27日開催の第60回理事会で承認されました。

日本英語学会 2009 年度収支決算書

2010年4月1日

日本英語学会会長 稲田俊明

収入	¥24,433,307
支出	¥13,808,184
2010年度への繰越	¥10,625,123

【収入内訳】

2008年度より繰越	¥10,354,861
会費	¥10,778,880
大会参加費	¥1,288,000
JELS予約金	¥350,000
科研費と利息	¥1,100,186
利息	¥3,679
雑収入	¥557,701
寄付	¥0
合計①	¥24,433,307

【支出内訳】

EL刊行費	¥3,761,051
NL等印刷費	¥94,542
業務委託関係費	¥2,372,585
事務委託費	¥1,264,166
発送費	¥1,108,419
大会関係費	¥2,475,692
印刷費	¥840,525
運営費	¥610,167

謝金	¥1,025,000
JELS27関係費	¥588,210
委員会関係費	¥1,253,533
旅費	¥1,130,100
会議費	¥123,433
事務局関係費	¥3,065,724
賃貸料	¥0
人件費	¥2,685,355
通信費	¥117,025
消耗品費	¥40,174
謝金	¥0
交通費	¥186,255
資料コピー費	¥0
その他	¥36,915
学会賞等費	¥196,847
協賛学会への助成	¥0
特別事業費への繰り入れ	¥0
予備費	¥0
合計②	¥13,808,184

【支出内訳】	
EL 刊行費	¥4,000,000
NL 等印刷費	¥100,000
業務委託関係費	¥2,700,000
事務委託費	¥1,200,000
発送費	¥1,500,000
大会関係費 (春)	¥427,031
印刷費	¥0
運営費	¥357,031
謝金	¥70,000
大会関係費 (秋)	¥1,900,000
印刷費	¥600,000
運営費	¥800,000
謝金	¥500,000
JELS28関係費	¥700,000
委員会関係費	¥1,600,000
旅費	¥1,400,000
会議費	¥200,000
事務局関係費	¥3,660,000
賃貸料	¥0
人件費	¥3,100,000
通信費	¥120,000
消耗品費	¥120,000
謝金	¥10,000
交通費	¥200,000
資料コピー	¥10,000
その他	¥100,000
学会各賞費	¥0
記念品	¥0
副賞	¥0
賞状	¥0
協賛学会への助成	¥100,000
予備費	¥200,000
合計	¥15,387,031

日本英語学会2010年度予算計画

以下に記載いたします2010年度予算計画書が、6月27日開催の第60回理事会で承認されました。

日本英語学会2010年度予算計画書

2010年6月27日現在

2009年度より繰越	¥10,625,123
2010年度収入	¥14,982,200
	¥25,607,323
2010年度支出	¥15,387,031
2011年度への繰越	¥10,220,292
	¥25,607,323

【収入内訳】

会費 (2010年度)	¥11,619,200
大会参加費 (春)	¥358,000
大会参加費 (秋)	¥1,000,000
科研費	¥900,000
利息	¥5,000
雑収入	¥600,000
寄付	¥500,000
合計	¥14,982,200

2010年度内収支	2010年度収入	¥14,982,200
	2010年度支出	¥15,387,031
		¥-404,831
2011年度への繰越	2009年度繰越	¥10,625,123
	2010年度内収支	¥-404,831
		¥10,220,292

[備考] 特別事業費 (別会計) の現在の残高は500万円となっております。

学会賞および新人賞検討ワーキング 委員会より

◇ 見直し作業の経緯と基本方針

昨年度に設けられた「新人賞検討ワーキング委員会」がまとめた検討事項の概要を踏まえて、本年4月24日に、新人賞検討ワーキング委員と編集委員および理事による「日本英語学会新人賞等検討のための合同懇談会」が開催され、2011年度以降、現行の新人賞と学会賞をどのように見直して運用するのがよいかについて討議されました。

昨年度優れた著書や研究論文を顕彰する学会賞が新設され、学会が会員に授与する研究賞として、昨年以来、学会賞と新人賞が並存するようになりました。現行では、新人賞と学会賞はそれぞれその設立の主旨や経緯を反映する形で応募や審査方式が規定されており、特に、応募年齢規定において両者の違いが顕著になっています。新人賞について応募や審査方式を見直して検討を進める過程において、学会賞も新人賞と同様に、今後の英語学会を背負う人材の育成に寄与するとともに、英語学会を基盤として活躍している会員の優れた研究成果を国内外に広く紹介し顕彰するという役割を十全に果たすようにさらなる整備が必要であるという結論に達しました。

合同懇談会では、まず、「新人賞検討ワーキング委員会」を「学会賞および新人賞検討ワーキング委員会」として拡充して、この秋までに「編集委員会」と協力して、受賞論文や受賞著書ができる限り毎年選考されるような新体制の準備を行うことが合意されました。

以下は、「合同懇談会」が、現行の新人賞と学会賞の規程を見直して、新たな体制の基盤として取りまとめた主要な重要事項です。

①新人賞および学会賞の運営を担当する常設の委員会を新設し、各賞の選考委員の選出や選考日程の調整を行って選考委員会の運営に当たる。各賞の選考委員は、理事（経験者）や編集委員に限らず、審査対象となる専門領域から適切な委員が得られるように、現行の外部査読者登録制度をより充実させて審査を行えるようにする。

②新人賞も学会賞も、応募方式、応募締切日、応

募申請書、選考方式、審査を補佐する体制等について可能な限り統一化を図り、さらに、公平で厳正な審査の透明性が高まるように、評価・選考基準を明示化する。応募期間は統一して、毎年4月1日から5月31日とする。

③新人賞と学会賞（論文）については、ELに掲載された論文で編集委員会が「EL研究奨励賞」として（複数）選定する受賞論文の執筆者のみが応募資格を有するという新たな応募規定を導入する。新人賞への応募資格は、研究奨励賞受賞論文となったARとBAの執筆者が有し、学会賞（論文）への応募資格は研究奨励賞受賞論文となったARの執筆者が有する。新人賞への応募の上限資格は、現行通り、40歳未満あるいは修士(博士課程前期)課程修了後の研究歴が10年以内であることを目安とし、学会賞（論文）への応募の下限資格は、原則として上記の新人賞の年齢（あるいは研究歴）規定に抵触しないものとする。なお、応募資格となる応募者の年齢（あるいは研究歴）を同定する際には、ELへの論文投稿時の年齢（あるいは研究歴）を基準とする。

④学会賞（著書）については、応募資格は現行規定の年齢制限を廃して、会員であって応募条件を満たしていれば、有資格者であるとする。また、現行規定の評議員1名を含む3名による他薦での応募規定を廃して、自薦による応募とし、応募申請書には会員1名による推薦理由を付すことを求める。

⑤新人賞・学会賞ともに、専門領域が異なる候補について優劣つけ難い場合には、複数の受賞も可能とする。学会の財政負担を考慮して、副賞等については、現行規定の再検討を行う。また、受賞の表彰の仕方についても見直しを行う。

⑥編集委員会は「*English Linguistics* 研究奨励賞」について、選考方法と審査基準の検討を行うこととする。受賞論文は、ELの1号と2号をあわせて各1巻ごとに専門領域も勘案し多くて5～6編を目安に一括選考を行う。編集委員会が当該年度で選出した「EL研究奨励賞」受賞論文は次年度の「新人賞」と「学会賞（論文）」の候補論文となりうるので、編集委員会は両賞の応募

申請書に推薦理由を記載する責務を負う。

本年5月末には日本英語学会ホームページに、新体制への移行期となる2010年度は新人賞の公募は行わないことと、今後はELに研究論文を投稿すれば、編集委員会が通常通り（年齢に関係なく）ELの評価基準により審査を行ない、採用となった論文から優秀なものを「研究奨励賞」論文として選定し、この「研究奨励賞」を受賞した論文の執筆者が新人賞の応募資格を得ることが公表されています。

◇ 学会賞（著書）、学会賞（論文）および新人賞の公募案内の概要

現在「学会賞および新人賞検討ワーキング委員会」および「編集委員会」では、①から⑥についてその詳細の検討を行っています。各賞の正式名称は、「(20xx年度)日本英語学会新人賞」、「(20xx年度)日本英語学会学会賞（論文）」、「(20xx年度)日本英語学会学会賞（著書）」となりますが、ここでの説明では、紙数の制約等により、適宜略称を使用しています。

①の「学会賞委員会」については、以下のような決定がなされています。(i)委員会は会長が委嘱する委員長と副委員長、編集委員会委員長と編集委員会副委員長、および事務局長の5名で構成する。(ii)委員長と副委員長の任期は2年とするが、創設時においては特別措置で運用する。(iii)委員長と副委員長は審査に直接携わる選考委員とはならない。(vi)編集委員会委員長と編集委員会副委員長は、「新人賞」と「学会賞（論文）」の審査に直接携わる選考委員を兼ね、委員会の運営の負担は負わないが、学会賞委員として、審査体制の維持に努める。

②から⑤については、この秋に新体制における応募・審査規程の詳細が最終的に決定されて、日本英語学会ホームページに掲載され、『え〜ごがく』54号においても報告されます。また、本年11月に開催される日本英語学会第28回大会のConference Handbookには、各賞の公募案内のページと応募申請書の見本のページが設けられます。

「新人賞」と「学会賞（論文）」については、上記の「編集委員会報告」ですでに2011年度の公募の概要が記されていますので、以下では、④の「学会賞（著書）」について、公募案内の概要を示し

ます。

④-1] 学会賞（著書）への応募者は、当該年度の応募開始時までに2年以上の会員資格を有することとする。（たとえば、2011年度への応募者の場合には、少なくとも2009年度と2010年度の会員資格を有しなければならない。）

④-2] 学会賞（著書）への応募著書は洋書、和書を問わず、主に英語の共時的・通時の研究、言語の一般理論に関する研究、または、英語と他言語（特に日本語）との比較対照研究を扱うものとする。その研究領域は、日本英語学会の研究発表や機関誌への投稿論文について審査対象としている研究分野とする。

④-3] 学会賞（著書）への応募期間は、毎年4月1日から5月31日とする。応募著書の出版期間は当該年度の応募開始時までの過去2年間に出版されたものとする。なお、同一書籍の応募は1回に限る。（たとえば、2011年度の場合には、2009年度と2010年度に刊行された書籍が応募可能となる。）

④-4] 学会賞（著書）への応募者には審査対象著書として7部（コピー可）の提出を求める。

④-5] 学会賞（著書）の選考は、1次審査と最終選考の2段階方式を原則とする。1次審査は、応募著書1冊ごとに審査委員5名で行う。最終選考は、1次審査を通過した書籍全てを対象にして最終選考委員全員で審査を行う。選考資料は、応募著書および応募者による要旨と推薦者による推薦理由書とする。

なお、共著論文や共著書の応募に関する細則等については、現在検討中ですので、本年11月に公表される最終的規定を参照ください。

JELSの配布方法の変更について

JELSについては、昨年度発行のJELS27までは、購入希望者のみに配布する方法がとられてきましたが、今年度発行のJELS28より配布方法を変更することが、理事会と大会運営委員会にて決定さ

れました。

変更点は、*JELS* を会員全員に配布する、という点です。*JELS* 発行後、年度末に、*EL* と同様に、会員全員に *JELS* が送付されることとなります。

そのため、今年の第 28 回大会より、受付の *JELS* 購入申込窓口は廃止されます。また、これまで *Conference Handbook* の巻末にありました *JELS* 購入申込用紙も廃止されます。

大会資料・プログラムの形式と送付方法の変更について

日本英語学会の大会資料・プログラムは、これまで、開催校情報、プログラム、発表要旨を冊子として作成し、9 月中旬までに会員に送付する方法をとってまいりましたが、今年の大会より、大会資料・プログラムの形式と送付方法を変更することが、理事会と大会運営委員会にて決定されました。

変更点は次の 4 点です。

- ①大会関連の資料のうち、紙媒体で会員に送付するのは、開催校情報とプログラムのみとする。
- ②送付の際の形式も、製本されたものではなく、ニューズレターと同じ形式のものとする。
- ③発表要旨は、日本英語学会のホームページに pdf ファイルの形で掲示するので、ホームページを参照していただく。紙媒体が必要な場合には、ホームページから pdf ファイルをダウンロードして、会員各自で印刷していただく。ワークショッププログラムについても同様とする。
- ④大会関連・プログラムの発送時期は、9 月中旬ではなく、夏季のニューズレター同時とし、8 月上旬から中旬とする。

以上のような変更を実施した理由は、必要経費の削減ということに尽きます。しかし、ただ削減するだけでなく、削減して捻出した原資を他の事業に回すということが目的です。

上記変更を実施する理由の一つとして、昨今 *EL* の出版のために交付される研究成果公開促進費の額が年々減額されており、学会の予算からの支出が増大している事実が挙げられます。もう一つの理由として、上述の *JELS* を会員全員に配布する

ことによる作成費と発送費の増額が挙げられます。

そのため、大会資料・プログラムの紙媒体で送付する頁数を減らし、形式を簡便なものにして、発送もニューズレターを同時発送として、必要経費を少しでも削減するように変更いたしました。

これまでも繰り返しニューズレターでお知らせしておりますように、日本英語学会の活動における諸連絡は、ホームページや E メールなどの電子媒体を通して行うことが通常の状態になっております。大会の発表要旨をホームページに掲載することもこの流れの一環であると位置づけられます。

会員各位におかれましては、昨今の日本英語学会の活動における電子媒体の利用状況と日本英語学会の財政状況をご賢察いただき、上記の大会資料・プログラムの書式と送付方法の変更についてご理解を賜りますようお願い申し上げます。

言語系学会連合の発足について

2010 年 4 月 1 日に、言語系学会連合が発足しました。2010 年 6 月現在で 30 の団体が加入しています。日本英語学会は、日本言語学会、日本語学会、日本語教育学会、全国語学教育学会とともに、幹事学会のひとつになっています。

2010 年 4 月から 2012 年 3 月までの運営体制は以下のようになっています。(敬称略。括弧内は所属学会。)

- ・運営委員会：影山太郎 (運営委員長、日本言語学会)、金水敏 (日本語学会)、廣瀬幸生 (日本英語学会)、廣瀬正宜 (日本語教育学会)、カイト由利子 (全国語学教育学会)
- ・監査委員：近藤泰弘 (日本語学会)、岡田伸夫 (日本英語学会)
- ・事務局：井上優 (事務局長、日本言語学会)、内海敦子 (日本言語学会)、高田智和 (日本言語学会)

詳細については、言語系学会連合ホームページをご覧ください。URL は、以下のものです。

<http://www.nacos.com/gengoren/index.html>

日本英語学会ホームページから言語系学会連合ホームページへのリンクが、4 月 30 日付で設定されておりますので、そのリンクから入ることもできます。

日本学術会議と言語系学会連合の主催で、公開シンポジウム「日本語の将来」が、2010年9月19日(日)13:00~17:00に日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34)にて開催されます。詳細については、言語系学会連合ホームページをご覧ください。

事務局より

○ 会員数について

2010年3月31日現在の会員総数は、1576名です。

○ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

○ 学生会員登録について

学生会員登録には継続手続きが必要です。指定された期日までに手続きをしない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意ください。

今年度の手続きは、2010年4月26日(月)に締め切りしました。

手続きの方法については、日本英語学会ホームページをご覧ください。

○ 日本英語学会からの各種お知らせについて

研究発表応募規定、EL投稿規定、学会賞・新人賞の応募規程等が改定される場合には、ニューズレターとホームページにてお知らせいたします。特に、ホームページには最新の情報が掲載されますので、定期的に閲覧することをお勧めします。

○ EL論文掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、日本英語学会事務局あてお知らせください。

また、最近、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」の整備が急速になされつつ

あり、ELに掲載された論文をそれに登録したいとのご希望が寄せられています。日本英語学会では、発行後4年以上経過した論文の登録をお認めしています。この場合も日本英語学会事務局あてお知らせください。

EL論文の再録やレポジトリ、アーカイブへの登録をご希望の場合の連絡先のメールアドレスは、以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

○ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録、および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局までEメールでお申し出ください。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したもののについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載を認めることになりました。

連絡先のメールアドレスは以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

○ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしくごお願いいたします。

○ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡することが普通になっています。つきましては、メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。万一、返信の未着あるいは遅着にて、行き違いが生じた場合には、ご容赦お願い申し上げます。

ます。

編集後記

○ 外部査読者登録（更新）のお願い

「English Linguistics外部査読者登録のお願い」を事務局から年2回（3月中旬～下旬と8月下旬～9月上旬）送信いたします。今年の8月下旬から9月上旬にかけても、登録のお願いを送信する予定であります。

すでに日本英語学会ホームページで案内されていますように2010年度は新人賞の公募を行わないことになりました。査読担当が可能であるとしていただいた外部査読登録者の方々には、来年度以降の新体制における新人賞および学会賞の審査の支援をお願い申し上げます。

上記の「編集委員会」と「学会賞および新人賞検討ワーキング委員会」からの報告にありますように、EL28巻以降は投稿数が増加することが予想されますので、外部査読依頼をお願いする機会も増えると思われれます。外部査読者登録制度への会員の皆様のさらなるご支援をお願いいたします。

○ 連絡先等変更のご連絡のお願い

研究発表応募、およびEL投稿の電子化に伴い、学会から会員への連絡は、電子メールで行なうことが通常の状態になっています。つきましては、メールアドレスに変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

住所等の連絡先および所属に変更が生じた場合にも同様をお願いいたします。連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

○ 親と子の部屋について

今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は、今回このニューズレターと同封されております「親と子の部屋利用案内」をご覧くださいのうえ、事務局までご連絡下さい。

なお、この部屋の使用に関する一切の責任は利用者が負うものとし、学会は一切責任を負いませんのでご了承下さい。

『え〜ごがく』52号でお知らせしましたとおり、今年の4月から、事務局の陣容が事務局長を除き一新され、事務局長補佐のポストも新設されました。事務局長は来年の4月に交替いたしますが、他の事務局のメンバーは、稲田新会長の任期中、日本英語学会の運営と事業の実行をサポートすることになります。

今年から、本文で言及いたしました、大会資料・プログラムに関する合理化をはじめとして、予算の有効利用を徐々に進めることになりました。コスト削減と同時に、会員にとっての利便性を維持することに配慮しながら合理化を進めてゆく所存です。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（岡崎正男）

2010年7月31日発行
編集・発行 日本英語学会
代表者 稲田 俊明
発行所 日本英語学会
<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>
〒113-0023
東京都文京区向丘 1-5-2
開拓社内
電話 (03) 5842-8900
